

先哲の思想を現代へ

- 絵本の読み聞かせを取り入れながら -

高等学校

(倫理)

1 はじめに

「昔の人が考えた事って、勉強して意味があるんですか？」

「何百年、何千年も前の思想が今の高校生の教科書に載っているわけだから、きっとあるはずだろう。」

「きっと、ですか...？」

「いや、それは、現代に通じる内容もあるし、もしある思想家が現代に現れたりしたら、僕らに何を伝えてくれるだろうなんて想像するのもおもしろくないか。」

本校は単位制高校であり、生徒たちは前年度の内に自らの履修計画を作成していく。上記の会話は、倫理を選択しようかどうか悩んでいる生徒と私が交わしたものである。

「倫理の時間で一体何をやっていこう？」、この科目を担当することになった時に、まず私はそれを思っていた。生徒も私も同じ教科書や資料集を持っていて、授業が始まり、終わっていく。その流れの中で何かをしておきたい、そう感じていた私は、自分が思わず発した言葉にそのきっかけを見いだすことになった。そして、先哲の思想を学び、その内容を使って現代の諸問題にあたっていこうとする立場を生徒たちとつくりたいという考えに至ったのである。

本年の倫理は3単位の授業として3学年に2講座を開く。それぞれを構成する生徒たちは、まず倫理をどのようなものと捉えているのだろうか。

「倫理とは何か？」、この質問を最初の授業で生徒たちに向けた。すると、「道徳みたいなこと？」、「よいこととわるいことの、よいことの方？」など、答えとしては妥当なものの、全ての生徒が疑問形で答えてきた。そこで「倫」は「人の集まり」、「理」は「すじみち」のことと説明し、「社会の中で人が守るべき道」といった意味であることを明確にした。生徒たちの倫理の授業の出発点はここであり、そうである以上、倫理が難解で遠い存在のものであってはならないと、強く私は心に留め置いた。

2 主題設定の理由

高等学校学習指導要領公民科「倫理」の目標には「人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせる」とあり、「先哲の考え方などを単に知識として学ぶことを目指すのではなく、生徒個々が自らの人生観・世界観ないし価値観を形成するよう、自己とのかかわりにおいてとらえ、自ら思索することを目指す」と説かれている。しかしながら、倫理を学ぶ過程においては教科書の記述内容の把握に終始して、その内容を深めようとする経験を持つのが難しいことも想定される。だからこそ、生徒が先哲の教えを学び、正しく理解し、その上で生徒自身において自らが思索し判断したという実感を得るという点において、生徒たちに倫理の授業の価値を見出させたいと考えた。

また同じく高等学校学習指導要領公民科「倫理」(2)現代と倫理の中項目 イ 現代に生きる人間の倫理 の内容の取扱いには、「倫理的な見方や考え方を身に付けさせ」とある。これは「倫理」の目指すところが「他者や社会に積極的に関わっていく態度を育成すること」であり、さら

に次の中項目 ウ 現代の諸課題と倫理 において「課題を選択して学ぶことができるようにする」と述べられている。従って、先哲の思想を手がかりとして、現代社会の諸事象について考える機会を創出することを倫理の授業の理想としたいとも考えた。

3 生徒意識調査（4月第1回授業において）の結果から（3年生163人中倫理選択者23名）

倫理は実社会に役に立つと思いますか？			先哲の思想は現代の我々にとって必要ですか？		
	人数	%		人数	%
そう思う	8	35	必要である	5	22
少しはそう思う	7	30	少しは必要である	15	65
あまりそう思わない	2	9	あまり必要ない	1	4
そう思わない	2	9	必要ない	1	4
わからない	4	17	わからない	1	4

これから学習する「倫理」が役に立つと考えている生徒が、「そう思う」・「少しはそう思う」を合わせて60%以上おり（より）、そこで学ぶ先哲の思想を必要だと考える生徒が、「必要である」・「少しは必要である」を合わせて90%近くいる（より）。このように、倫理を選択した生徒たちであるため、生徒たちの意識が高い状態で授業が始まることになった。

また、「現代社会における倫理的課題とは何か？」の問いに答えた項目としてあげられたのは、おおよそ次のようである。

いじめ 差別・偏見 未成年者の犯罪 命の重さ ネット 人同士のつながり
環境問題 宗教問題 脳死 死刑制度 虐待 無差別殺人 クローン 世の中

現代社会における倫理的課題について考える機会がありますか？		
	人数	%
ある	0	0
少しある	4	17
あまりない	8	34
ない	6	26
わからない	5	22

ここには、科目としての倫理が現代社会の課題とする内容が含まれている。倫理を学ぶことにより、それらの課題に近づく方法を生徒たちは求めていると言えるかもしれない。しかしながらの結果を見ると、現代社会における倫理的課題について考える機会があるかとの問いに対して、「あまりない」・「ない」の生徒で60%となり、「思っているけれども、考えていない。」という傾向が大きいことがわかる。

これらのことから、生徒のあげた事の中から、先哲の思想をよりどころとしてそれら倫理的課題について考えていくのが望ましく、また生徒の思考そのものも深化するのではないかと判断した。

4 研究内容

（1）実践として

ここでは、キリスト教の思想をもとに「いじめ問題」解消への方向性を考え、また「無差別殺傷事件」を取り上げて仏教の思想に沿ってとらえなおすことでその原因を尋ね、加えて生徒自身が時代の流れの中でどのように生きていくかを探っていきたい。これらの実践により、学習内容と社会事象を連関させる方法を具体化していこうと考える。

(2) 絵本の導入について

そもそも生徒の倫理的素養はこれまでの幼い頃からの生活の中で既に培われているのであり、高校で「倫理」を学んだから身に付くというようなものではない。「倫理」の役割は、さまざまな思考の訓練をし、将来に向けた精神的準備を生徒にさせることにある。そのための「倫理」が難解な言葉で語られることに終始してはならない。「人間の心の深層というのと絵本はいちばん関わりが深いのではないのでしょうか。」と臨床心理学者の河合隼雄氏が語っていることから、生徒たちが過去に必ず接しているであろう絵本を、高校での学習内容を理解・把握するための媒体として利用する価値はあると考える。

また児童文学家の松井直氏は、「絵本は子どもに読ませる本ではない。大人が子どもに読んでやる本」だと述べ、たとえその対象が「大学生であろうと絵本を自分で読むときと読んでもらうときとは非常に違う印象をもつよう」だとし、「絵本というのは、絵を見ながら読んでもらうときに不思議な働き」、すなわち「大きな世界をつくっていく」のだという。そこで授業の中で絵本を取り扱うのであれば、「読み聞かせ」が最も効果があると考えた。



読み聞かせの様子



取り上げた絵本

さらに松井氏は、絵本は読み聞かせしてもらうことによって文章と絵の二つを読み取ることで、「そうして子供が自分の中に物語の世界をつくるんです。ですから絵本そのものは手がかかりであって、子供が自分でつくる世界がほんとうの絵本、それこそが絵本体験だと考えています。」とも語っている。そうであるならば、授業のまとめなどにおいて学習内容に沿った絵本を題材とすることで、生徒たち自身が学んだ内容を消化し、反芻し、具体的なイメージとして定着させることも可能なはずである。この授業の発展型として先哲の思想内容をもとに物語をつくり絵本にするという授業を視野に入れた場合、絵本の導入は、新高等学校学習指導要領の主要な改善事項である「言語活動の充実」の第一歩となりうるとも考えられるのではないだろうか。

(文中引用：『絵本の力』河合隼雄・松井直・柳田邦男著 2001年 岩波書店 より、12頁の7も同様)

5 授業実践

(1) キリスト教...いじめ問題

ア 概要と目的

キリスト教について学習の後、いじめ問題について考える。その克服に向けて何が必要かを「姦淫した女」の話の朗読をきっかけとして探らせることにより、イエスの言動がいじめ問題解決への手がかりとなり得ることを実感させるとともに、生徒各自がいじめに立ち向かう意識を確立することを目的とする。

「姦淫した女の話」を取り扱うにあたって

これはごく一部の資料集に記載されている程度であるが、私の授業ではモーセの十戒「あなたは姦淫してはならない。」や山上の垂訓の一節「みだらな思いで他人の妻を見るものはだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。」において「姦淫」について触れており、高等学校学習指導要領の指導計画の作成と指導上の配慮事項のイには「先哲の基本的な考え方を取り上げるに当たっては、内容と関連が深く生徒の発達や学習段階に適した代表的な先哲の言説等を精選し」とも書かれていることから、この内容をイエスの思想を象徴する事柄として取り扱う。

イエスはオリブ山に行かれた。そして、朝早く、イエスはもう1度宮にはいられた。民衆はみな、みもとに寄って来た。イエスはすわって、彼らに教え始められた。すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられたひとりの女を連れて来て、真中に置いてから、イエスに言った。「先生。この女は姦淫の現場でつかまされたのです。モーセは律法の中で、こういう女を石打ちするように命じています。ところで、あなたは何といわれますか。」彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。

*しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪の無い者が、最初に彼女に石を投げなさい。」そしてイエスは、もう1度身をかがめて、地面に書かれた。彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定めるものはなかったのですか。」彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」 (ヨハネによる福音書第8章1節～11節)

また、そうする限りは次の内容を生徒に伝えることで姦淫は罪であり、処刑の対象であることを明確にしたい。なぜならそれが把握されていることで、イエスの言動の意味合いが見定められるであろうし、全体にわたる注意すべき点としての「姦淫した女(=罪人)」と「いじめの対象(=罪人などではない)」が等しくないことを伝えるためにも必要だと考えるからである。

もし夫のある女と寝ている男を見つけたならば、その女と寝た男およびその女と一緒に殺し、こうしてイスラエルのうちから悪を除き去らなければならない。(旧約聖書申命記22章22節)

イ 学習活動

(ア) 授業の流れ

段階	区分	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点
導入	a	いじめとは? ・文部科学省の定義 (平成18年度)	「姦淫した女」の話前半(*印以前) ・いじめをイメージし、「姦淫した女」の話と重ね合わせる。 ・いじめの定義を確認する。	・2つの内容に共通する部分と、異なる部分を明らかにさせる。いじめは当人の落ち度によって生じるものではないことを明確化しておく。
展開	b	いじめの場面 ・出会ったらどうするか。	・自身が取るのであろう行動を想像し、述べる。	・消極的意見を否定しない。...(A) ・積極的意見を肯定しない。...(B)

35分	c	実際にあるいじめの現状 (学校裏サイト・プロフ ・中傷メール等)	・現状を知る。	・冷静に事実を伝えることに努める。
	d	いじめの疑似体験 ・暴言カード	・「暴言カード」を、自分の言葉のように読み上げる (5名)。	・言われた人の気持ちを想像しながら聞くようにさせる。 ・担当者の経験であることを伝える。
	e	いじめについて考えるレポート(『スクールライフ 21』P.78.79「いじめの壁を越えて」)	・レポートの問いに答える。	・いじめを否定する内容の答えに対し、それ自体が自身の体面を保とうとするだけではないのかを問いかける。 ・(B)における積極的意見の欺瞞性に言及する。
	f	いじめの源 ・魔法の数字カード	・カードを読み上げ、自身の気持ちを答える(3名)。	・自分が見下すことのできる人物のいる安心感についてとらえさせる。 ・いじめの要素がすべての人にあり、しかもそれに気がついていない現実があることに気づかせる。
	g	いじめの解決 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">「姦淫した女」の話後半(*印以後)</div> 問：「イエスは誰の立場だったか？」 問：「イエスは律法学者・パリサイ人・民衆に対しては何をしたか？」 問：「誰がこの状況から女性を救うことができたのか？」	・「女性。」 ・「自分の罪に気づかせた。」 ・「そこに集まったすべての人々。」	・身をかがめている時、女性と共に(女性と同じ立場で)非難を受けていた。 ・女性の罪を自分の罪としてとらえさせ、それぞれの人における「良心(道徳的な心)」を目覚めさせたことに気づかせる。 ・この状況の解決には、イエスの言動が必要であったことを確認させる。
まとめ 10分	h	いじめ解決の具体例 ・中学生の例 問：友人をいじめから救ったのは？	・「いじめの中に飛び込んでいったこと。」	・行動することによってのみいじめを解決できることを認識させる。 (A)における消極的意見を乗り越える必要性を訴える。
	i	絵本『ちびっこちびおに』(読み聞かせ)	・見る・聞く。 ・感想を述べる。(数名)	・何を感じ取るかについては、生徒の感性に委ねる。

(イ)各区分において

a.ここでは、この実践の基盤を作るために「いじめ」と「姦淫した女」の話の共通点を生徒に把握してもらわなければならない。そこで、まず「いじめ」を生徒にイメージさせ、その上に「姦淫した女」の話を重ねていき、生徒にそれを気付かせるように次のようなやりとりをおこなった。

問 :「勢いが優っている立場にある人が勢いが劣っている立場にある人に対して、自分は本当にちゃんとしているのかということを書き上げて、しばしば多数で一人または少数に対して苦しめたり危害を加えたりすることを何というか？」

生徒 :「いじめ。」

問 :「(「姦淫した女」の話前半の朗読の後に)この中で優勢な者、劣勢な者、それを傍観していた者は何か？」

生徒 :「律法学者とパリサイ人、姦淫した女、民衆。」

問 :「この話の図式は何と似ているか？」

生徒 :「いじめ。」

問 :「ところで、姦淫した女といじめの対象の間には違いがあるが、何か？」

生徒 :「姦淫は罪、いじめられている人は罪人じゃない。」

問の質問は、生徒達には難解だったために、「姦淫 = 罪」であることを強調して手がかりとさせ、答えを導いた。

d. いじめの現場でどのような言葉が発せられているかを知ることによって、いじめについて現実的に考えられるようにした。用意したカードは次の5つである。

「お前の着てる服、なんか気味悪い。」

「邪魔だ、どけ。うせろ。」

「お前、使えねえ奴だな。」

「何見てんだ。死ね。」

「そのほくろ、人の顔に見えて、気持ち悪い。」

f. カードに進む前に生徒には、「いじめをしたいと思うか？」と問いかけ、いじめの要素が自らには無いことを確認させておいた。

用意したカードは次の3つである。

18

80

7

それぞれの数字は自分が取ったテストの点数だと説明し、各生徒にどう思ったかを聞いた。特に のカードの生徒には、 と の生徒の点数を知った時点の気持ちを尋ねた。

- ・ に対して : 「すごいですね。」
- ・ に対して : 「自分も赤点だけど下がいたんですね。」

といった答えが返ってきたために、さらに の点数の生徒がいることに対して、嬉しいかどうか尋ねた。その答えはこうである。

「嬉しいということはないけれど、ちょっと安心しますね。」

この感じ方はおそらく多くの生徒に共通するものではないかと考えるが、ここにある実態のない優越感はいじめの始まるメカニズムそのものであることを生徒に明確に伝えていった。

h. 例として示したのは以下の内容である。

中学生のN子は、親友が集団に囲まれて口から水を吹きかけられているのを見た。腹が立ったN子は、その集団に飛び込んでいって、親友をいじめていた者たちに対して逆に水を口から吹き返してやった。N子の剣幕に驚いた彼女たちは、以降、親友をいじめなくなった。

(参考『大人が知らないネットいじめの真実』渡辺真由子著 2008年 ミネルヴァ書房)

N子はその行動によって、いじめられている人を救い出したのであり、いじている人にその状況があってはならないと伝えているのだということを理解させた。

i. 『ちびっこ ちびおに』のあらすじを記す。

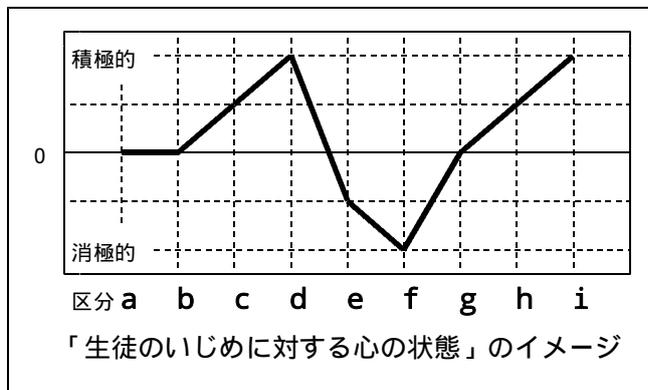
山からおりてきたちびおには、まぎれこんだ幼稚園で、みんなと1つになって楽しく遊ぶことができました。

(文/あまんきみこ 絵/若山憲 1975年 偕成社)

ここで描かれる、異質なものを自分たちの中に自然と取り込んでいく子どもたちは、「隣り人を愛する」本質を表しているとも読み取れるし、いじめの芽を生まない姿勢を描いているとも思える。そのため、この授業の最後に取り上げる対象として最も望ましいだろうと考えた。

ウ 検証

「いじめはいけない。」といったステレオタイプの考えに留まっていたは、生徒たちが行動をとれないままになる可能性がある。そこで、キリスト教の学習の流れにおいてこの「いじめ問題」を取り上げることで、「またか。」といった反応は一切無く内容を始めることができた。



左表は、授業中の生徒の心の状態を「イ授業の流れ」の各区分毎に想定し、全体を通して表したものである。実際の授業においても区分dで「いじめ」に対する嫌悪感を強めた生徒たちは、しかしながら区分eで気持ちが揺らぎ、区分fでその気持ちの拠り所を見失ってしまったようだった。

そこで、生徒たちの「いじめはいけない」と思いつつ、「いつする側に立つともしれない」という葛藤の状態に道を拓く手掛かりとして「姦淫した女」の話を用いたのである。この中でイエスが「わたしもあなたを罪に定めない。」と述べたことが、神による救済、いわゆる「赦し」を意味するかは、宗教上の議論のあるところであろう。大切なことは、この場面でイエスが人々に女の罪に匹敵する自分の罪に気づかせたということであり、単純に「イエスが女を赦した」ということでは語り尽くせないと思われる。むしろ「いじめ問題」に取り組む上で重要なのは、律法学者・パリサイ人、そして民衆を主軸に置くことである。なぜならこの律法学者とパリサイ人は「いじめる側」に当てはまり、民衆は「いじめの傍観者」となっていたからである。生徒たちは、この三者と自分たちの共通点を感じ取るであろう。この三者に自分の罪を気づかせたのはイエスの言動であり、そこでは「律法の内面化(右記参照)」が行なわれていたのである。

「いじめ」について先に記した葛藤を抱えた生徒たちは、この部分を通して、自分の負の面を認めた上で、「いじめる側」にも「いじめの傍観者」にもなってはいけないと固く思いながら行動に移せれば、区分hのように「いじめを解決できる」のだということを捉えてくれたはずである。

「律法の内面化」：イエスは、律法は他人を律するためにあるのではなく、自らを省みるためにあるのだと説く。他人のしたことを見るのではなく、自分のしたこと、自分が心に思ったことを律法に照らすこと、律法の「ものさし」を他人の行動に当ててその是非を計るのではなく、自分の心に当ててその誠実さを計ってみることを求めた。

また、まとめの絵本の読み聞かせの場面では、「いじめ」に対する最も望ましい形を示すこと

ができたのではないかと思う。絵本の感想を聞いてみるとひとりの生徒が「ちびおにをすんわり受け入れた絵本の中の子どもたちは、いいと思う。」と語ってくれた。自分たちにとって、仮に異質であっても、その対象を受け入れていくことの大切さを読み取って欲しかったからである。

(2) 仏教...慈悲：無差別殺傷事件

ア 概要と目的

仏教について学習の後、無差別殺傷事件について考える。このような事件を避けるためには、仏教で言う「慈悲」の心を全ての人が持つべきだと意識させたい。ただし、このような事件に対して生徒が感情だけで判断するのではなく、事件の背景や本質に迫る試みを経てから何が私たちに必要かをたどらせていきたい。そのために、生徒各自が事件についての識者の意見が書かれた新聞記事を分担して読み、要約し発表することで、事件の内容をお互いが把握する。それぞれの意見に対して、生徒が大切だと思う部分を抜き出す。それらを集め、整理する。以上の過程を経て生徒たちに論理的思考を経験させていく。また終わりには、この事件を通して、生徒たちが生きるこの時代に必要な生活態度とはどのようなものかをとらえさせたい。

「秋葉原無差別殺傷事件」を取り扱うにあたって

この事件については、2008年10月10日に東京地検により容疑者が殺人・殺人未遂・公務執行妨害・銃刀法違反で起訴され、本授業時においては今後公判前整理手続及び公判がおこなわれていくという状況であるが、社会における影響の大きさや高校生たちの事件に対する意識の高さから、授業での資料の情報元を新聞の全国版に限り、公平さを保つことを条件にここで取り扱うこととした。

イ 学習活動

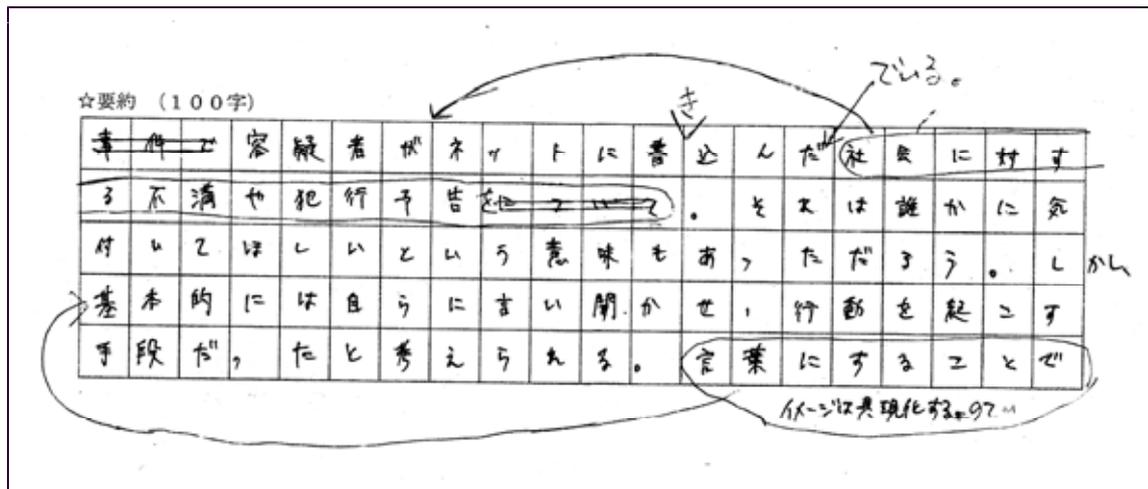
(ア) 授業の流れ

段階	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点
導入 5分	秋葉原無差別殺傷事件 ・資料(読賣新聞 2008年6月9日夕刊)	・事件の概要を確認する。	・客観的な態度で伝え、生徒にも意見を求めることはしない。
展開 35分	識者の意見 ・資料(読賣新聞 同年6月10日/6月25日~29日/7月2~4日朝刊)	・記事の要約(100字以内/各自識者1名を担当)/各自朗読 ・他の生徒の要約を添削する(1人分) 後掲 a	・他の生徒に伝えるために、客観的な要約を心がけるよう指示する。/声に出して読ませ、内容を確認させる。 ・日本語として意味が通るか、確認させる。
	要約の発表/各要約(記事)の内容に対する問題意識	・自分の書いた要約を読み上げる。/各要約毎に気になる点をメモさせる。	・付箋紙をあらかじめ渡しておき、書き込ませる。
	意見の集約 : クロス法 後掲 b	・グループ(5~6名)に分かれ、クロス法の進め方に従い表を完成する。 後掲 c	・グループごとに机をつけさせ、模造紙で作成した表を配布する。/クロス法の流れを板書し、各自のカードを机に出させて作業に入らせる。

		・グループ毎に表をまとめた内容を発表する。 後掲 d	・発表者を決めさせ、全員で原稿を作るよう指示する。
まとめ 3分	「慈悲」の大切さ	「慈悲」の復習 ・ノートを見る。	・生徒たちがまとめた内容に基づいて、それらを自分たちに返して考え、自身に求められていることとしてとらえ直せるような流れをつくる。
発展 7分	必要な生活態度 ・資料(読賣新聞 2008年6月9日夕刊): ブログの書き込み 後掲 e 問: この内容に共感できるか? ----- ・「小欲知足」(説明) ・絵本『ちょっとだけ』(読み聞かせ) 後掲 f	・考えを述べる。 ----- ・見る・聞く。 ・感想を述べる。(数名)	・多くを求めようとする生き方は、望ましいかどうか考えさせる。 ----- ・何を感じ取るかについては、生徒の感性に委ねる。

(イ) 後掲

a. 生徒の要約例...添削済み



これをもう一度要約を書いた生徒に戻し、添削内容を確認させて発表の原稿とした。

b. クロス法は高橋誠氏(教育学者)が考案したデータ整理の技法で、次にあげる内容を持つ。

データを記入したカードを並べ、内容の同一性によりまとめる。その項目名を決定し別カードに記入して項目の順位を決め、左から順に貼る。その後各項目内のカードの順位を決め、上から順に貼る。

このように進めることによって、用紙の左側に近く、かつ上位にあるカードほど重要なデータとなり、発想データを項目別にまとめ、各データの評価まで一挙に行なう技法である。(日本創造学会HPより作成)

c. d. 完成した表の一部

項目	命の重さ	人間関係
	もし“大切な人”が容疑者にも存在してい	自分の感情を素直に伝えたり、うまく表現で

1	れば、何か変わったはず。	きるようになれば、お互いを理解することができるようになる。
2	現実の死、その悲しみとはどういうものなのかを改めて理解する必要がある。	親のせいにするのは良くないが、家族・友達・彼女、誰か1人でも話し相手がいれば事件は防ぐことができた。
3	命の重さを教えることはとても難しいけど、それを伝える努力は必要だと私も感じた。	自分を醜いと思い込む、それを違うとってくれる人もいない。心が大人になるまで親がついてあげても良い。
4	現実の死や命の重さを容疑者が知っていれば、こんなにひどい事件にならなかったと思った。	「孤独」はすごく怖いと思う。周りの気持ちのあり方によっては、こんなことは起こらなかっただろう。
5		信頼できる人がいないと毎日が嫌になるので、人と良い関係を築けるようにならないといけない。
6		起こした事件は理解し難く、許されないが、精神的不安が事件につながったという点については同意できる。

・まとめ発表の例（上掲グループ）

容疑者は、自分の感情のままに行動してしまっていて、命の重さを考えていない。また、非正規社員であったため、職業や収入も安定せず社会からの孤立感を持ってしまったことも原因ではないか。でも、1人1人が人間関係を上手く成り立たせることで互いに人間らしく、大切な人として扱われ、命の重さを知ることができる。これが1番大切であり、それがモラルを作り上げることにもつながっていく。

e. 該当ブログに関する記事の要点は次のようである。

両親への不満・挫折感

- ・「親に無理やり勉強させられていたから勉強は完璧」
- ・「中学生になった頃には親の力が足りなくなって、捨てられた」
- ・「県内トップの進学校に入って、あとはずっとビリ 高校出てから8年、負けっぱなしの人生」

不本意な現在の境遇に至った責任を両親に転嫁している。

職場の人間関係をめぐる葛藤

- ・「作業場行ったらツナギが無かった 辞めろってか」

人間関係の不満を記す。

雇用不安

- ・「別の派遣でどっかの工場に行ったって、半年もすればまたこうなるのは明らか」

派遣社員という立場の雇用不安をつづっている。

友人や恋人のいない孤独感

- ・(友人ができない理由として)「不細工」

容姿のコンプレックスを挙げる。

- ・「彼女がいない それがすべての元凶」

f. 【e】について問題意識を抱えた生徒たちに、「小欲知足」という考えが仏教の教えにあることを伝え、多くの欲求が満たされない時代において、どのような生き方が望ましいのかを絵本を通してとらえさせようと考えた。『ちょっとだけ』のあらすじを記す。

妹の生まれた女の子が、忙しそうなおかあさんに、今までより「ちょっとだけ」ずつお願いしています。でも、その気持ちに気付いたおかあさんが「ちょっとだけ」ではなく、「いっぱい」だっこしてくれました。

(瀧村有子さく 鈴木永子え 2007年 福音館書店)

ウ 検証

繰り返される無差別殺傷事件について生徒たちは、冷静に思考を進めることで、自信ある態度でこうした問題に取り組もうとする様子が生まれていた。学習を通して、「慈悲」を単なる用語としてではなく、このような事件を起こさないために必要なこととして理解し、この言葉が持つ「人の悲しみを私の悲しみとし、人の喜びを私の喜びとする」という意味を改めて心に刻むことができたのではないだろうか。また、「小欲知足」に基づく生き方についても、すでに自分自身の経験から実感できたようである。特に絵本については、その話の中に「慈悲」の心が親子の間にも流れていると読み取った生徒もあり、ここで取り上げる絵本として妥当であったと考える。

ところが、授業を終えた後で、生徒たちが次のようなことを話し始めた。「何故、このような事件が起きてしまうのだろう。何故、その人がそうなる前に周りの人が何とかしてやれなかったのだろう。本当に相手を大切にするというなら、何故その状態からその人を救ってやれなかったのだろう。」つまり、私が意図したことを超えて、生徒たちは「慈悲」のあり方を見ていたようである。何か悲しいことや辛いことが起きてからの「慈悲」ではなく、そのようなことが起こる前の「日常の中の慈悲」こそ大切なのだと、私が生徒たちから教えてもらう経験をした。

6 実践後の生徒意識調査の結果から（対象：2頁3の調査と同様）

キリスト教の教えを用いて「いじめ」について考えられましたか？

	人数	%
そう思う	9	39
少しはそう思う	10	43
あまりそう思わない	0	0
そう思わない	0	0
わからない	4	17

仏教の教えを用いて「無差別殺傷事件」について考えられましたか？

	人数	%
そう思う	2	9
少しはそう思う	13	56
あまりそう思わない	4	17
そう思わない	0	0
わからない	4	17

この授業実践の本来の目的が果たされているかを聞いてみた。 においては、「姦淫した女」の話がエピソードとして生徒たちに訴えるものがあつたであろうし、授業の本筋を示すことにもなっていたので、「そう思う」・「少しはそう思う」の肯定的意見は80%を超えた。 においても肯定的意見は60%を超えた。しかしながら「あまりそう思わない」が17%もあり、2つの結びつけに無理がなかったかどうか、再考の必要があるかもしれない。

最も悩ましいのは、 の両方に「わからない」と答えた生徒が17%ずついたことである。授業実践中はそれぞれの生徒が前向きに取り組んでいたと見えたが、「何となく授業が始まって、実際には何をやっているのかわからない」状態の生徒がいたということである。このような生徒を出さないためには、授業開始時にその目的を熟知させておくというのも一つの方法だろうし、今後試していきたい。

では、絵本自体を「いじめ」と連関させた展開をしたからか、おおよその生徒が肯定的な答えをした。では肯定的な生徒においては深く考えるきっかけになった者もいたが、「あまりそう思わない」と答えた生徒も4名いて、それらの生徒にはこの絵本が浮いた状態になってしまっていたことになる。また、とも「わからない」と答えた生徒もおり、絵本の選定や絵本への内容のつなげ方などについては、今後細心の注意を払い続けなければならない。

キリスト教の教えを学び、絵本『ちびっこちびおに』によって「いじめ」をおこさない糸口を考えることはできましたか？		人数	%
そう思う	15	65	
少しはそう思う	7	30	
あまりそう思わない	0	0	
そう思わない	0	0	
わからない	1	4	

仏教の教えを学び、絵本『ちょっとだけ』によって「自分自身の生き方」について考えることはできましたか？		人数	%
そう思う	11	49	
少しはそう思う	7	30	
あまりそう思わない	4	17	
そう思わない	0	0	
わからない	1	4	

7 授業者としてのまとめ

「倫理」の教科書の中から思想家に出てきてもらって、私たちと一緒に「現代社会」の問題を考えてもらおうという意図で始めた授業であった。

絵本については、ノンフィクション作家の柳田邦男氏が「大人自身が絵本の中にどれだけ入りきれているのか、絵本をどこまで読みこんでいるのか、あるいは絵本に自分が本当に興味を感じたり、感動したり、いろんなものをわが身の問題として感じ取っているのか。それなしに子供にいくら語りかけてもほんとうは伝わらないんじゃないか。」と語っているとおり、絵本であるから何とかなるというものではない。対象の絵本に対しては真摯に近づかねばならず、これは結構に苦しい作業で、絵本探しから始め、その絵本が真に思想との適合性があるのかなど、常にいろいろな壁があった。それでも学習内容が絵本に移されることで、生徒たちがより倫理を身近に感じてくれているのではないかと思うことができた。

8 おわりに

「倫理」は「生徒の心を耕す」科目であって欲しい。そして、先哲の思想は、その本質がわかると、現代に生きる私たちをより善い方向に導いてくれるのだと実感させることが、「倫理」の授業のつとめであろう。「はじめに」の中で、履修計画に悩みながら私に質問してきた生徒は「倫理」を選択してくれ、1年間の授業後に「先哲の思想をもとに、現代社会の諸問題について考えることはできると思うか？」との問いに、「できると思う。なぜなら、皆、新しい方へ、違う方へと考えをおし進めている気がするので、新たに考え出すのではなく、古きよき考えを使い応用すれば、難解な問題も解きやすくなるのでは、と思うからです。」と答えてくれた。この生徒の感想は、「先哲の思想は、自分自身の在り方生き方や現代社会の倫理的課題を考える上で、十分手がかりとなり得る」ということを意味するのではなからうか。今回の授業が、生徒の心を十分に耕すものになったかどうかはわからないが、生徒自身が人間としての在り方生き方についての思索を深めるために、何かしらの種をまくことができたのではないかと考えている。

